

● 第2回京都子どもの水辺 18日 42人の参加

当日のプログラムは午前中(自己紹介 三川合流展望台から周辺の山名と巨椋池等の説明) 午後(昆虫観察 魚とり カヌー乗船体験)を計画しました。昨年は水量の増加でできなかった「水辺での体験」の実現のために木津川の三川合流部の水位が大変気になりました。

7月27日に行ったテレビ撮影時から水位が50cm近く低下してカヌーは底を擦るという状態でした。従ってとても魚とりを行なえませんでした。しかしこの取り組みは「近畿の子どもの水辺」交流発表会が2年前に中止になったので昨年第1回京都子どもの水辺として開催しました。今年は2回目の取組なので、中止を考えないで、できることから実行として悪条件を覚悟していました。よく、「やってみなければわからない」と言われていますが、取り組み姿勢や準備体制のどれをとっても不十分なものでしたが、いざ開催して見ると、それなりに収まってくるものです。展望台での周辺の山々の解説の金田さんのお話に新鮮味を感じたと感激されていました。この広いところが巨椋池の国営第1号の干拓事業とは知らなかったという感想もいただきました。

次の昆虫観察では桜谷先生からこれだけ多くの昆虫が生活していること、夏越しする昆虫の存在も初めて知った。そして魚捕りでは楽しく川の流れに乗れたとか魚の取り方を知ったとか、きれいなみずに感激した。そしてカヌー乗り体験では初めての参加でしたが、流れをさかのぼれたので自信が付いたなど、いい経験をさせてもらったという感想が聞かれました。いろいろ多くの反省点がありますが、失敗を恐れずやり切ってみると、楽しさと面白さを実感できるということでした。水位の低下を非常に気にしたのですが、危険性という点からすると逆に安全性が増したということになるのではなかったと思います。当日スタッフとしてご協力頂きました皆様ご苦労さまでした。

● チャメルキャットフッシュ (アメリカウナギ) 5匹も一度に捕獲 特定外来種に指定されている

アメリカウナギといわれる魚が初めて里山の会が知ったのは、菊池さんが玉水橋下流で捕獲され時からです。この魚は布目川ダムでは釣り大会の折に大きさを競う魚にされているようです。しかしこれは特定外来生物にされている魚で、ブルーギルや、ブラックバスの被害をはるかに超えるものとされているのです。その幼魚が5匹も御幸橋の下で一度に捕獲されたのですから、きっと近くにその産卵場所や親が住み着いているのではないかと想像できます。大きさは120cmになり、大人のコブシが口にスッポリ入る巨大なものです。

● 親子で遊ぼう学ぼう魚とり 19日(日) 渇水と猛暑で魚とり不可能と判断して中止 今年の「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」は8回計画しました。豪雨発生 猛暑連続 熱中症続発 日照り連続、大型台風の発生等、木津川の水位は大きく影響を受けています。増水や渇水があり、魚を捕ることが出来なくなっています。こうした影響で3回も中止せざるを得なくなりました。加えて、熱中症の危険が大きく報道されて、主催者として真夏における屋外活動を控えるようにという報道が繰り返され、非常に消極的になりました。特に授業で屋外の活動を終えて校舎に戻って1時間後に異常が明らかになり、手当の介護なく死亡する大事件があつて、子どもたち相手の取組では随分と神経質になりました。それでも当日には多くの子どもたちが参加してくれたので、元気をもらいました。当時に安全に対する責任感を痛感したものです。いずれも大きな事故もなく無事に終了できたことは、ご父兄の方々のご協力とスタッフの気遣いがあつて、成功できました。

そして、参加募集において、世話役を引き受けていただいた方を最終戦で参加受付をと明記したことで、随分と参加者の方がたのご協力がありました。そしてこの取り組みの現状をお話し、来年度の開催にあたって、世話役をお引き受けいただきたいとお願いしました。快く了解をいただいた皆さんが多くおられたことに感謝しています。心強い応援支援をいただけたものと思います。一応、企画した魚とりイベントが終わりましたので、できるだけ早い時期に、ご参集をいただき反省を含めて話し合いの機会を持ちたいと思います。その節にはご参加をお願いします。

● 動力式竹割幅精製機の製作の製作 80%完成 25日に試作試行を行う。

8月25日は中聖牛設置着工日。これまで二度の竹蛇籠の製作作業の中で、伐採竹の選択と切り出し、筐の

払落し、そして竹の割り、幅の調整と節取り、次に曲げやすく扱いやすくするひび割れ入れが大仕事でした。竹蛇籠の編む前の準備作業が随分と苦労させられました。今回は三度目なので、この前作業の合理化をどのように解消に取り組みました。高橋慶平さんに相談して、野菜を運ぶキャリーのキャタビラを動力にした竹割機の製作にかかっていたいただきました。いよいよ、これを使って試運転に漕ぎつけられました。高橋さんの苦心の成果品です。これが予想通りに効果を発揮すると、最大の大仕事をクリアできて困難が解決されます。25日の成果が待ち遠しいところです。中聖牛設置の着工日に試したいと思っています。

● 今年の「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」で中止は3回 異常気象による 命に危険に迫る猛暑

5月28日 6月23日 7月21日 7月28日 7月29日 8月4日 8月18日 8月19日を予定していました。結果的に最後の取組になった8月4日では最も熱中症を心配しました。子供相手にした屋外での取組をするのは何か、罪悪感を感じながらのものでした。無理をしない気持ちもかなりあり、随分と揺れに揺れました。会場を何回も見て回り、この程度の水位と木陰があるなら実施が可能である判断して木津川本川へは近づかないとして開催を決めました。そして暑さ対策として、魚とりを一番期待している子どもたちの気持ちを考えて、計画していたプログラムをできるだけシンプルに改善し、魚とり時間を45分間と魚合わせや、開会時間をシンプルに抑えて、11時過ぎを解散時間に組みなおしました。スタッフや指導者にこの旨を伝える意思統一を朝一番に行いました。川の思い出の一番印象深い本流での川流れは次回に省きました。それでも会場の支流の川には水が残っていて、魚とりは全員が成果を上げられました。見事に無事故で終了できました。

● 9月1日(土)第24回里山講演会 講師決定 『防災士 有本敏雄さん(元気象庁職員)』

全国の防災の日の講演会こぞってご参加をお待ちしています。講演の題目は「大阪府北部の地震について」として *南海トラフ地震の歴史 *いづどこでもの直下型地震 *京都府の地震 *地震への備へ(その時どうする)のお話を用意いただいています。そして京都大学院2回生の小林慧人さんが「竹の花が咲いた」と題して研究報告をいただきます。お二人のお話は聞き洩らしてはならない貴重な研究成果をご報告をされるものです。里山の会としての重要さは暮らしに直結する地震報告であり、所嫌わず蔓延する竹の猛威についてなので、全会員さんのご参加をお願いしています。

そして時間はありませんが、この異常気象についても、特別報告をと準備中でもあります。皆様が今最お持ちになっている関心や疑問についてお答えできる時流に合った演題の講演会と自信を持っています。関係者の猛烈なご協力が重なり合いました。こぞってお越しく下さい。会場は京田辺市中央公民館です。資料が必要な方は、資料代として200円をご準備ください。参加費はもちろん無料です。素晴らしい資料を用意しております。ご期待ください。

● 第24回通常総会第2回理事会の重要性について 24日(金) 16時から里山の会事務所

来年は里山の会が結成(1996年)されて25周年(2021年5月15日)となります。カウントダウンは979日となりました。この間の数回の事務局で2021年5月15日をどういう形で迎えるのかと議論を重ねてきました。通過点とした節目とか、幕引きの日とするなど、いろいろなご意見が沸騰しています。昨年秋以来の国交省淀川河川事務所からの希少種植生調査管理業務の受注 竹蛇籠の製作設置を通じての生き物増やし、京都大学との木津川土砂研究における里山の会の役割、京都府との地域力再生プロジェクト事業や夏原クラントからの活動助成金の交付等資金面の確保における信用信頼度の向上、調査観察活動における希少種生き物の保全観察調査と管理(カスミサンショウウオ、オオムラサキ、レンリソウ、フナガバラソウ)に加えて、多くの発刊物による社会貢献が実績です。これまでにない継続性の事業の新設を考慮すると里山の会が果たしている責任は非常に重いものがあります。加えて、河川協力団体としての位置づけにかかわっていただいた関係者の尽力に対しても簡単に引きさがれるものではありません。内情問題解決も至難の課題あります。

25周年の節目は、内情問題を別にしても社会的に非常に大切な節目であります。この時期に開催される第2回理事会は、これまでにない責任の重い重要な会議であります。各理事はこの状況を深く自覚してご参加いただき、熱心なご議論をお願いするものです。万障繰り合わせ、ご出席をお願い致します。